

植林人生

「敬太郎さん、今日も植林ですか。よく精が出ますね。」

村人のあきれたようなあいさつである。

犬童敬太郎は、日露戦争に出て、故郷へ帰って以来、まるで、とりつかれたように、木を植え育てることだけに打ちこんでいた。朝は早くから夕方遅くまで、汗水を流し、植林、植林の毎日であった。

どうしてこんなにまで、木を植えることに情熱を傾けるようになったのか。彼ははつきりと語ってはいないが、大陸へ渡り荒れ果てた土地の中で暮らしている人々の様子を見たことで、山林と人間生活との深いかかわりについて、何か強く考えさせられたに違いない。

故郷へ帰った日、彼は、

「ふるさどっていいな。夢にまで見たこの山や川は本当にすばらしい。だがこの山の荒れ方はどうしたことだ。みんな山林のありがたさを忘れている。山林がみんなの財産だってことが、わからないのかな。」

と、知人に話している。

こうして、敬太郎が植林の仕事を始めてから、何年かたった秋のことである。村人が仕事の帰りに、山道を歩いていると、人の話し声らしいものが聞こえてくる。

「大きくなったな。偉いぞ、偉いぞ。」

だれかが子どもを励ましているようである。周りを見回すと、林の中には敬太郎がただ一人立っているだけで、話し相手らしい人影はない。

村人は不審に思っ、

「敬太郎さん、あなたはだれと話をしていたんですか。」

と尋ねると、敬太郎はまじめな顔で、

「ああ、今、この杉の木たちと話をしていたんですよ。大きくなるのが楽しみでね。」

と言う。村人は驚いて返す言葉もなかった。

また、こんなこともあった。ある人が、敬太郎に山林を切って売るように勧めたが、彼はがんとして売ろうとしない。

そこで、その人は、

「あなたは、そんなに木ばかり植えておられるが、杉は五十年、ヒノキは六十年と言いますからね。おそらく、あなたの生きていくうちに切って売れることは、難しいでしょう。それに、もしも子どもの時代になって、子どもが金使いが荒く、木を切って売ってしまふようなことになったらどうしますか。それより今切り出して、少しは楽な生活をした方が、得だと思えますがね。」

と言ったら、敬太郎は、

「なるほど、そういう考え方もありますね。しかし、私がこの木を植えることで、いったいだれが損をしているでしょうか。みんないくらかずつの利益を受ける者はいいても、損をしている人はだれもいないと思えますがね。苗を植える人、育てる人、製材する人、そして、それを使って家を建てる人など、この木はだれにとっても役に立つはずですよ。そのほかに、良いことが、もっともつとあるかもしれませんよ。中には、成長する木を眺めながら喜ぶ私のような者もいます。それに、人間ばかりじゃない。鳥

やけものだって喜んでくれます。たとえ子どもが私の育てたこの木を売って何をしようか、子どもがそれで喜ぶなら、それもいいではありませんか。」

と言ったのである。その人はさすがのこと引き下がっていった。

その後も、敬太郎は周りのうわさは気にもせず、ひたすら木を植え育てていった。

後に、敬太郎は村民の信望を集め、球磨郡上村の村長になり、かねてからの念願である村有林の育成に全力を傾けていった。まず、村長となって第一にやった仕事は、千八百ヘクタールにおよぶ村有林の植林と伐採について、基本となる計画を立てることであった。しかし、当時の村議会は一人の山林専任書記を置くことにさえ反対した。そこで、敬太郎は全議員の家を回り説得に説得を重ね、ついに全議員の承認をとりつけた。そのほかに山林技手も併せて採用することも決定したのである。その山林技手を、村長より高い給料で待遇したという。

その後いろいろな困難もあったが、その度に、彼の立派な山林を育てようという信念と情熱は高まっていった。こうして村有林についての基本計画を仕上げることができ、大正四（一九一五）年から二十ヘクタールに及ぶ植林が毎年実行されていくことになる。



球磨郡上村
現在のあさぎり町上。

山林技手
山林の仕事の指導をする技術者。

この計画によって最初の植林が行われた時、先頭に立って木を植えている敬太郎のほほには、何か光るものがあった。

このようにして、白髪岳しらがたけのすそ野に広がる村有林は、豊かな美しい山林と生まれ変わっていった。



しらがたけ 村有林
白髪岳の村有林

犬童敬太郎いんどろうけいたろうは、球磨郡上村くまぐらじょうむら（現在のあさぎり町上）に生まれた。明治四十三（一九一〇）年に上村の村長に選ばれると、村民が協力して村有林そんゆうりんを育て、保護する計画を立てた。木はゆっくりに育つので、すぐ売れるようにはならず、村有林の手入れを手伝ってもお金がもらえない計画だったため、村民の多くが反対した。しかし、敬太郎は五十年後の村の姿を考え、村中を回って村民に考えを伝えた。その結果、計画は実行され、上村は緑豊かな土地になっていった。